

魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・ 中根橋小・板橋第一小) ニュース

第4号

発行日：平成27年6月12日
開催日：平成27年5月26日
発行：板橋区教育委員会事務局
新しい学校づくり課
学校配置調整担当課長
電話 3579-2090

第4回協議会内容

平成27年5月26日に仲宿地域センターにて第4回協議会を開催しました。第4回協議会では、これまでの協議会での協議経過も踏まえ、協議委員の方々からご意見等をいただきました。本号では、各協議会委員から発言のあった意見等の主な内容について紹介いたします。

なお、第4回協議会から協議会委員の新規加入・変更がありました。新たな協議会委員として篠田剛板橋第一小学校PTA会長が加わったほか、板橋四ツ又町会からの協議会委員が林睦夫町会長に変更になりました。

意見交換

- 委員：学校教育の中では、競い合いや助け合いなど協同生活での様々な経験を通して子どもが成長して人間としての基礎を作っていきます。公平な社会の中では努力すれば報われ、逆に手抜きをすれば問題点が出てくると思います。小規模校は、先生の人数も少なく、先生にかかる負担は大きいとよく聞きます。事務作業の時間も多くなってしまい、本来の教育活動が十分にできなくなってしまう恐れがあるのではないのでしょうか。今回、地域の代表の方が参加しておりますので前向きな議論ができると思います。その中で得られた意見を教育委員会が真摯に受け止めて対応して頂きたいと思います。
- 委員：3校の保護者の方々など色々な方に話を聞いた感想としては、3校ともに、全く教育環境に支障がないことが分かりました。板橋第九小は、児童数が少ないですが、今通学している子ども達は、このまま卒業させたいとの意見が多くありました。財政上の問題もあるとは思いますが、どうか、板橋第九小をこのまま残してほしいと思います。
- 委員：板橋第一小の通学区域が含まれる町会の代表者として参加しておりますが、板橋第一小を見ていると学校と地域が一体的に活動をして行くことが大切だと思います。
- 委員：10年ほど前から3校ともに概ね同じぐらいの子ども達が地域内にいましたが、結果としては、板橋第九小のみが児童数が少ない状況となっています。入学予定校変更希望制など様々な問題があるとは思いますが、何故、板橋第九小のみが児童数が減少してしまったか、考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- 委員：統廃合の経験がある方が、その体験にもとづいて板橋第九小の方々と話し合いをしていくこともあった方が良いかもしれません。統廃合を前提とした議論ではなく、じっくりと話を進めていく方が良いのではないのでしょうか。
- 委員：前回の協議会で、文部科学省が作成した公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きの中に、小規模校のメリット・デメリットが書かれていました。板橋区が、今回国が作成したような手引きを作成して、2つ以上のクラスがある複数学級が望ましい等、基準や指針を示した方が良いのではないのでしょうか。全くの白紙から議論しても遅いと思うので、板橋区が指針を示して議論をしていった方が良いと思います。

事務局：板橋区教育委員会では、審議会を設置し、平成13年に適正規模及び適正配置に関する答申を受けております。中身としては、6学級以下150人以下を下回ったら対応を要する学校としました。平成24年には再度審議会から答申を受け、その後、基本方針を策定しております。その中では、小学校は、12学級～18学級を適正規模校としております。また、平成26年2月には、いたばし魅力ある学校づくりプランを策定し、適正規模校を12～18学級としており、6学級以下120人以下を下回ったら協議会を設置して対応を要する学校としましたので、この協議会を設置することになりました。

委員：学校の廃校は望んでいません。この協議会が設置されたことについても疑問に思っています。私は、この協議会には子ども達のためにも学校を無くしたくないとの思いだけで参加しております。板橋第九小が無くならない様に皆さんお願いいたします。

委員：統廃合に関しては、教育委員会の説明では、地域が決めることのことでしたが、協議会の開催前に、教育委員会がもっとハッキリとした基準などを作ってから協議した方がもっとスムーズだったのではないのでしょうか。もっと教育行政としての責任で一定の基準を作って対応していくべきではないかと思えます。

委員：板橋第九小に通学させている保護者の方々は小規模校のメリット・デメリットを理解した上で、小規模校のメリットに重きを置いて入学させているのだと思います。今、10人以下の学年が2つあることやこの協議会が開催されていることを踏まえると、平成28年度の入学者は激減してしまうと危惧しております。できればこのまま当面は板橋第九小を存続していただき、今後、校舎を改築する時に再度協議会を設置して検討していけば良いのではないのでしょうか。

委員：このまま何もしなければ、板橋区内の全ての小学校が小規模校になってしまいます。それで良いのでしょうか。狭い地域に多くの小学校があり、この地域には小学校が多すぎるのではないかと感じています。個人の意見としては、統廃合は賛成の意見です。ここをスタートとして板橋区全体の通学区域の見直しを図っていくべきだと思います。今在学している子ども達・保護者の気持ちを第一に考えて行動してください。

委員：板橋第九小学校PTAの意見としてお聞きください。私は板橋第九小の複数の保護者にお話を伺っておりましたが、お聞きした限りでは、保護者から少人数でのデメリットだったり、統廃合を望んでいる意見は一つもありませんでした。また一方では、何が何でも統廃合反対と言うことではなく、将来的に物理的な部分では統廃合は必要だと言うことも理解はしています。ただ、協議会が長引けば長引くほど、子ども達や保護者の不安は大きくなるばかりです。(例えば)近隣学校と定期的に合同授業を試みたり、1学年が5人以下を下回ったら翌年度は統廃合など、もう少し細かい方向性(策定)を早急に見だし、子どもたちのケアについて、もっと深く話し合わなければいけないと思います。

委員：今起きている問題に目を向けて具体的な話し合いをしていくことが大切だと思います。皆さん同じだと思いますが自分の学校が一番であり、それが小規模校であることは関係ないと思います。ただ、現実的な対応を考える時期が来ているのではないのでしょうか。板橋第一小が改築をしていた時に本当に板橋第九小にはお世話になったと思っています。プールを借りて水泳記録会をしたり、運動会の練習をしたりと色々利用させてもらった時期もありました。歴史的な話として、板橋第一小から分れて板橋第九小が出来たとの歴史的な経緯なども伺いましたが、現実的な話として、板橋第九小の子ども達が実際に来ることになれば、どんな歓迎会を実施していけば良いかなど、話したこともあります。実際に違う学校に通学している子ども達の心の距離を近づけ

ることが大切ではないでしょうか。以前から板橋第一小と板橋第九小の交流は過去にもありますし、今後も継続していくべきだと思います。

委員：3校が、もっと交流を深めた方が良いのではないのでしょうか。例えば、板橋第一小に板橋第九小の子ども達に遊びに来てもらうなどの交流をしてみてもどうでしょうか。また、板橋第九小 PTA が行っているかえで祭りを通して、PTA 間の交流を深めるなどもあるかと思います。

委員：保護者としての意見を少し話させていただくと、板橋第九小の保護者の方々のことを思うと心が痛みます。この協議会を開催する事により、子どもたちや保護者やの方が不安に感じていると思います。また、実際に統合することになれば、子ども達の心のケアを大切に考えてほしいです。

委員：事務局の説明や皆さんの意見を拝聴するかぎり、私自身の結論は出ておりませんが、現時点の意見としては、どちらかというのと統廃合止む無しと思っています。

委員：3校ともに50人ぐらいの子ども達がいるのに差が出てしまっているのか考えていかなければと思います。中根橋小のスクールガードとして毎日子ども達と接していますが、毎日子ども達を会うことで、顔色で体調面まで分る時もあります。また、成人式の時等、子ども達の成長に触れたり、成長した子ども達に声をかけてもらったりと、地域の人間として喜びを感じます。皆さんと協議を重ねていければと感じております。

委員：結論を急ぐ時期ではなく、PTA の在り方、教育の在り方、人間形成の在り方など様々な面からじっくり検討を行うべきとの意見もありますが、一方で早く結論を出すべきとの意見もありました。例えば、A案やB案といった提案を行い、其々のメリット・デメリットについて協議を重ねていく時期まで来ているかとも感じました。

委員：この協議会を子ども達の事を考える協議会にしていきたいと思います。子どもにとってこの6年間は精神的にも肉体的にも成長を遂げた大切な時期だったと思います。そのためには、一定の人数の中で切磋琢磨をしたり、沢山の意見の中で競い合いだけではなく、他人との協調性や助け合いを学んだり、他人を知ることで自己を知ることになると思います。

委員：学校は塾ではなく、社会に出ていくために様々な事を学ぶ場だと思います。社会は、とても厳しいと思いますので、一定の人数がいる中で揉まれることも大切だと思います。この協議会の設置について初めて聞いた時、私にとっては寝耳に水でした。この協議会が設置されることにより、板橋第九小とは、近隣であるにも関わらずギクシャクしてしまったと感じており残念に思っています。今後は、大人の思いだけではなく、子ども達の事を一番に考えていきたいと思います。

委員：教育委員会では、12～18学級を適正規模校として基準を設けています。児童数が120人以下であれば協議会を設置するとしているようですが、児童が増えた場合は、どのような対応となるのでしょうか。また、入学予定校変更希望制は、平成26年度に変更になったばかりです。もう少し、時間をかけて様子を見た方が良いとは思いますが、教育委員会の考え方を把握する事が重要だと思います。

委員：小規模校のメリット・デメリットですが、例えば学年の人数が少なければ、横の広がりには、限界がありますが、そのことを弱点だと思えば、その弱みを理解して強みに変えていくことが学校経営だと思います。先ほどの横へのつながりがデメリットであれば、縦への関係や保育園や地域といった関係をつくることで補うことができます。どんな学校でも弱みや強みがあると思いますが、デメリットを変える努力をどこの学

校でもしていると思います。教員には、異動があります。今の板橋第九小は、人数は少ないですが、教員・保護者・地域が一致団結しており、パワーのある魅力のある学校です。そのパワーがあるうちに方向性を出すことも重要ではないかと思います。

委員：中根橋小は、全校 12 学級、1 学年 2 学級なので学校生活がしやすい環境です。以前赴任した学校で、前年に改築統合を実施した学校も経験しました。子ども達は、2つの学校から集まった感じはありませんでした。2校から来ているので、其々のカラーがあるとは思いますが子ども達は、統合したことで全く新しいカラーを作りだしている感じました。交流授業についてですが、学校はカリキュラムが年度当初に決まっているので、年度途中で変更することが難しい面もあります。交流授業を行うのであれば、計画的に実施していく必要があると思います。

委員：板橋第一小ですが、この協議会の中の学校では校庭も一番広く、最新の設備を備えた素晴らしい学校であり、普通学級も 18 学級設置できる設計となっております。この学校を預かる身としては、地域の皆様方の税金で作られた建物でもあり、多くの方々に利用していただきたいと考えております。現在は、13 学級と全ての部屋が埋まっていない状況でもあり、この施設を有効に活用していくことが地域の皆様への恩返しだと考えております。

委員：教育委員会としましては、複式学級は回避していきたいと考えております。複式学級となると例えば 2 年生と 3 年生を一人の担任で教えていくこととなります。何としても複式学級は避けるべきだと考えております。大山小の最終年度、複式学級が 2 つ発生してしまい全校 4 学級となりました。教育委員会としても苦渋の決断でしたが、保護者や地域の方々も苦渋の決断だったとは思いますが、プラン通り協議会を設置するのではなく、この状況を見守ればとの意見もありましたが、120 人を下回っている以上、協議会を設置して地域の方々と協議をしていく責任があると考えております。教育委員会としては、統合が遅ければ、遅いほど、学校としてのパワーが低下してしまうのではないかと考えております。A 案や B 案を提示して協議を進めてみてはどうかといった意見や基準を設けてみてはどうかといった意見もありましたので、事務局内で検討させて頂ければと思います。

会長：先日、小規模化した小学校の特色として、全学年でマーチングバンドを組んでいる内容のものが放送されていきました。卒業により人数が減ってしまい、マーチングバンドの継続が困難になったというところで、その番組は終わりました。本日の皆さんの発言も含めて一定の児童数があり、学校としてのパワーがある中で結論を出していくことが重要だと感じました。この課題について、PTA・学校・保護者が真剣に考えて一定の結論を出していく必要があり、未就学児の保護者の方々が子どもを小学校に入学させる際に戸惑いが無いようにしていきたいと思います。その際は、色々な考え方があるとは思いますが、子ども目線・親目線を大事にしていきたいと考えております。

協議内容予定

- ・第 4 回協議会（意見交換）の総括について
- ・今後のスケジュールの確認など

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課 学校配置調整第二グループ

電話 3579-2090 FAX 3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会（板橋第九小・中根橋小・板橋第一小）の会則・協議会ニュース、次回の日程等は、区ホームページからもご覧いただけます。

http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/067/067580.html